

# PHD LETTER

## <33>

PEACE・HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT 1989・12

- スリランカフォローアップ&スタディーツアー'89レポート……………P3
- インドネシアフォローアップ&スタディーツアー'89レポート……………P6

PHD運動とは1962年(昭和37年)より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事された岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり(Peace)健康づくり(Health)を担う人材をつくる(Human Development)運動を世界中にひろめることを目的として、1981年(昭和56年)からはじまりました。

発行：財団法人PHD協会

編集人：草地 賢一

住所：〒650 神戸市中央区元町通5-4-3 元町アーバンライフ202  
TEL(078)351-4892 FAX(078)351-4867

郵便振替：神戸1-29688 財団法人ピー・エイチ・ディー協会

定価：100円

レイアウト：エフアンドエフ



インドネシア 西スマトラ州アイルバンギス

日本でなら起きたことのない時間に浜辺を歩いた。  
もうたくさんの人々が働いている。  
浜から魚をあげる人。魚を買いつける人。  
白い湯気の中で小魚をゆでる人。  
みんな朝からイキイキ。

# 草の根の人々を訪ねて

— Report from Asia and South Pacific —

## タイ・フォローアップの難しさと喜び

10月中旬タイ・チェンマイを訪問しました。今年2回目です。過去4年の交流を経てプリチャー(3期)、ウィラット、ペリヤ(4期)コマ君(5期)を迎え、また村へ送りながら今一つ彼らの送り出し団体であるタイ・カレンバプテスト会議(KBC)との関係が有機的でありませんでした。今回はPHDとKBCの関係を評価し整理するのが目的でした。去る4月からトンカム・ソンセン氏に代わってサニー氏が総事に就任しています。僕が15年前にチェンマイに滞在していた時から古い友人です。彼と色々話し合い、彼等の仕事の進め方を確認しました。

タイでは仕事はどちらかという組織で進めるよりも個人の関係について回る事が多く、結局前総事の人柄と人脈が中心にPHDとの農業交流プロジェクトが進められ、KBCの農村開発部及びその委員の人々の参加は充分得られていなかった事が判明しました。実はその事は僕には3年前から見えていました。しかし外国人が年に1回ぐらい顔を出しその場で関係の是正を求めてもそこ限りに終わってしまい、かえってPHDのチャンネルに直接つながった研修生の立場が微妙になるだけであることが分かっていたから、あまりそれを強調出来ませんでした。今回は友人としてサニー君の方からその経緯を説明し善処を約束してくれたのでした。

今まで続けた交流やフォローアップがその基になってようやく望ましい組織的関係を一歩進めることが出来ました。大変短い滞在期間をやりくりし、プリチャー君の村の女性による自然の草木染めによる織物グループ、ウィラット、コマ君の2つの村で進めている野菜作りグループのフォローを3人と話し合い、織物についてはチェンマイ在住の浅井さん(日本キリスト教団農業宣教師)、大津さん(アジアキリスト教協議会チェンマイ事務所幹事)の応援を得、技術とマネージメントの面で協力が得られること

になりました。また近い将来3人の進めている野菜作りグループが安定供給できるようになる事を目指しつつ、チェンマイでそれを消



ムシキー村の女性グループのバッチワーク、キルティング指導について打合わせるプリチャー君と大津恵子さん(チェンマイ)

費するグループ育成の可能性についても研修生、サニー氏、浅井さん、大津さんと話し合いました。もし有機農産物の生産消費の「生命共有のサイクル」が北タイに生まれればこれ程嬉しいことはありません。「今、北タイではTVやラジオで農業被害による死者や残留農薬の危険が大変大きく取り上げられています。皆の関心が高まっています。」というプリチャー君の声に希望を託したいと思います。

## 来年は2名の研修生—パプア・ニューギニア

「ラスカルの被害増大による12時間の外出禁止令」が実施されているパプア・ニューギニア(PNG)第二の都、レイである緊張を覚えながら7期生トニー君の送り出し団体である福音ルター教会(ELC)農村開発部長、K・カナイ氏と話し合いました。ラスカルという可愛い名前とは逆にそれはPNGの人が怖れている強盗のことです。詳しく説明する紙数がないのが残念ですが、それは急激に貨幣経済化が進むPNGの中でコインを手に入れることの出来ない都市流入者の不満の爆発といった現象でしょうか。K・カナイ氏はその中でトニー君の日本における研修内容に強い関心を示しPNG最初の研修生の成功を願っていました。

過去3年間の調査、説明がやっとトニー君の来日によってPNGの人々にリアルに受けとめられている実感を得ました。ひとつの国、団体との関係というのは相互に最小限の理解と信頼を作り出すまでに相当な積み重ねが必要である事を前述のタイと同様感じます。

今回の訪問目的はトニー君に続く研修生を選考することでした。ELCの今年の手配は昨年と比べてスムーズで既に1つの候補地域と3人の候補者が用意されていました。陸路の無い、船か小型飛行機でつながっているニューギニア側フロン半島のフィンシャーフエンにある村から2人の農民を来年迎



第8期研修生に選考された2人 左からレルさんヘルベさん、草地。

えることになりました。2人とも意欲のある中堅の農民指導者です。この地域は太平洋戦争の傷がそこに残っている所でした。村人の語り口の端々に戦争が終わっていないことを感じました。

## 交流の広がり

89年1年で延べ約14週間アジア、南太平洋に出張しました。旅先で交流先の団体を通じて本当に多くの人と出会いました。その中から11月には6人の草の根の人々(フィリピン東ネグロス・マンフォッドの町長、インドネシア西スマトラの芸能グループ等)を日本に迎えました。いずれも10日前後の短い滞在ですが交流の日常化が進んだことは嬉しいことでした。

PHDを媒介にして今後も益々アジアの人々との出会いを深めて参りたいと存じます。 総主事/草地賢一

# SRI LANKA

## スリランカ

### フォローアップ&スタディツアー報告

スリランカをツアーとして訪ねるのは今年で3回目。4人の帰国研修生が待つボヤワラナ村が目的地。今年は8月19日～26日の日程で中学・高校生を中心とした旅になりました。

一番良かったことは、スリランカの友達ができただけでなく、名前がサマズリでした。夜中にごまをすっていたから、あだ名がゴマズリのサマズリになりました。アジャンタさんとは日本で会っていて、覚えてくれていました。

山端宏弥(加古川市 志方小 4年)

村の子どもたちは自然をあいにく、テレビもないのに、たいくつせず遊んでいた。日本の子供からは考えられないことだった。食べ物では、米をすりつぶして、水でといて焼くアーナパがとてもおいしかったので、アジャンタさんに作り方を教えてもらった。

竹内一浩(加古川市 志方小 6年)

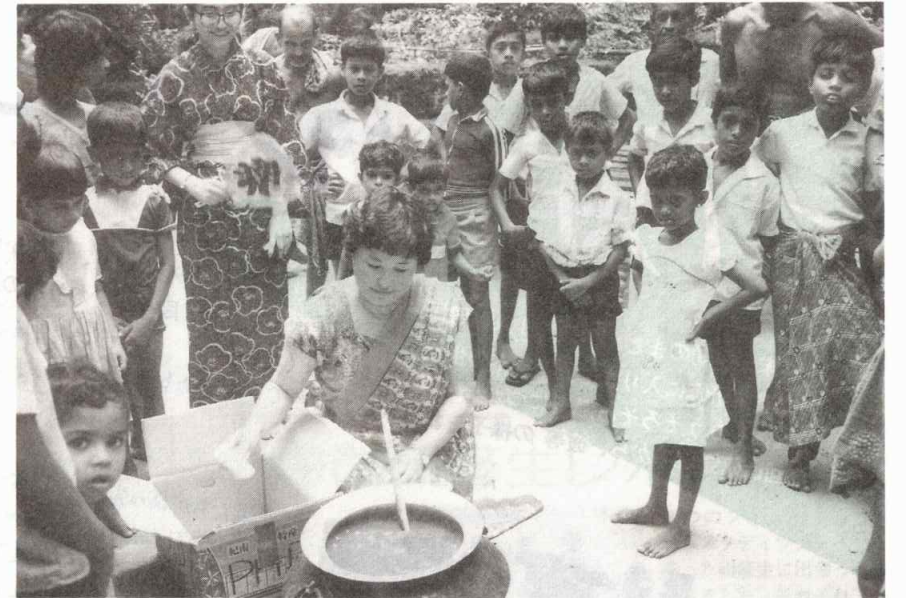
この8日間ですぐにいろいろなことを学んだと思います。日本でのくらしがとてもめざましいと感じました。でも村の人たちは貧しくても、心の暖かさがあっていました。村では子どもたちと折紙をして遊び、とても喜んでくれて嬉しかったです。

竹内身佳(加古川市 志方中 2年)

私はスリランカはきたなくて、なんにもない所だと思っていました。ところが行ってみるととてもきれいなところだったのでびっくりしました。村の子と言葉が通じないだろうし、生活もちがうのですごく不安でしたが、すぐ仲良くなれたし、私の名前を覚えてくれたこともすごくうれしかったです。

小南和子(加古川市 両荘中 1年)

一番に気付いたことは村の子供たちが本当に素直で村長さんや母親のいうことをよくきくことだった。日本の子とは違う、全違う。また、大人も子供を子供として扱わず、一人の人としてみている



ぜんざいパーティーに集まった村の子供たち

ような気がした。一人の人間というような感じで、自律している。この村の子に、日本の私たちの毎日を見られたら恥ずかしく感じるに違いないと思った。

布藤奈巳(神戸市 北摂三田高 2年)

スリランカに行って、スリランカの事より自分や日本のことがよく見えたように思います。自分と日本のことをふりかえってみなおすことができたのでしょうか。ひとつの流行にのって生きるのではなく、問題意識をもって自分で考える努力をしないといけない、日本は精神発展途上国のまま向上しないと思います。

寺岡尚子(兵庫県播磨町 播磨南高 3年)

滞在中、銃をもった軍隊の人たちを何人見たかわかりません。今スリランカは国の中で争っていますが、同じ国の同士で殺し合っても何の得もないと思います。村で会った人たちはいい人ばかりでした。はやく争いごとがなくなって、村の人たちで力を合わせて生活をよくしてほしいです。

黒田真美子(加古川市 加古川南高 1年)

村の市場に行ったとき、乗合バスからお兄さんが大きなビニール袋をもって降りてきました。私たちのところに来ると、袋から猿をだして芸をさせていました。みんなが写真を撮っていたら、お金をくれと言われました。アジャンタさんにきくと、そういう仕事の人はカースト制の中で一番下のカーストの人だと話してくれました。今の時代にカーストがあるなんて思わなかったので、とてもショックでした。

草地裕子(神戸市 甲北高 3年)

同じ地球人。飽食の日本、美容食、減量、グルメ…。あまりにぜいたく、あまりにもつたいない。

スリランカで「下さい」と寄ってきた子供、老人の顔が忘れられない。今のままでは、日本ダメになってまうぞ。

丸山悦司(加古川市 表具師 研修滞在家中)

これまで未知の世界だった国に行き、日本のくらしのぜいたくさを知った。エコノミックアニマルと言われるのは、日本の経済力が他のアジア諸国との関係の上に成立しているものであるにもかかわらず、相手のことを考えず好き勝手やっているからではないだろうか。

石坂典明(和歌山市 和歌山大 1年)

アジャンタさん(4期生)はお父さんを昨年亡くされ、今お母さんが病気で大変です。ここでは健康保険がない(医者代が高くて)と言っていました。スリランカは仏教の国ですが、法事にとてもお金がかかると言っていました。1ヶ月の収入が2000ルピー弱なのに、1回の法事に5000ルピー。それが年3回。でもその土地で生きていくために、また村の人たちのためにもがんばって欲しいと思いました。

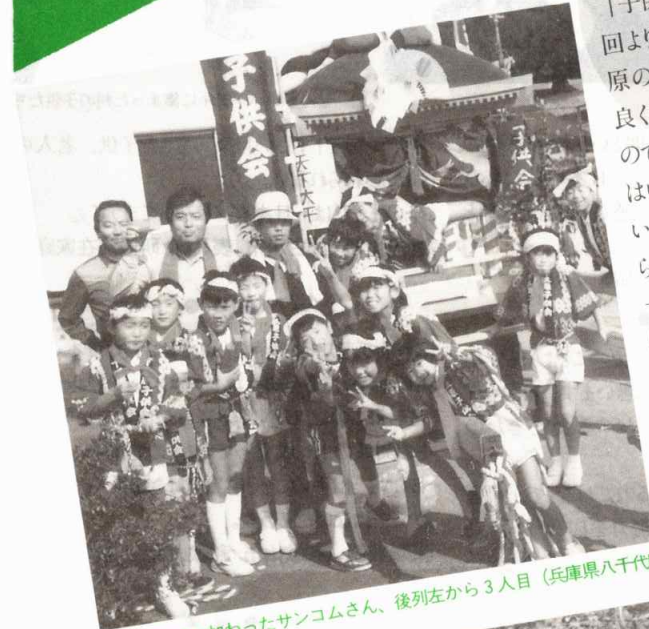
黒田おさみ(加古川市 主婦)

前のツアーでフィリピンに行ったときも政情不安、今度のツアーの前も内戦のような記事をいくつか読み、アジアの人の暮は大変だなと思いつつ村に入った。特にどうこうはなかったが、泊まった家では入口のところに若者が寝て、番をしていた。

状況が状況なので派手には出来なかったが、持参のユカタをサリーと交換しての「ぜんざい」パーティーを開いて、村の人々にふるまった。情があついボヤワラナの人たちのためにも早く政情が安定してくれることを願う。 丸山陽子(加古川市 主婦)

# 7期生レポート

7月末の中間のまとめの後、3人は韓国農村にてかけました。日本に戻り、9月からは前半期の研修を土間に腰をすえた長期農業研修に入りました。日本の生活にはなれてきましたが、段々寒くなり南の人にはつらい季節です。3人ともそろそろ湯舟につからないと風邪をひくぞー。今回は研修現場から、彼等の様子をお母さん方の声でレポートします。



村の秋祭りに加わったサンコムさん。後列左から3人目 (兵庫県八千代町)

「子供たちが真っ先に仲良くなって、おにいちゃんと慕っています。サンコムさんも前回より固さがとれたみたいで、一緒に楽しく遊んでいます。10月10日は八千代町下三原のお祭でした。お酒の席でも陽気なサンコムさんは地区の若い人たちとすぐ仲良くなり、友達ができたお家の家にお邪魔したりしています。外見は私達と変わらないのですが、日本では食べないかぼちゃの芽をとってきてゆがいて食べたり、お風呂にはいる時には、寒くても湯舟につからない、こんな所でタイと日本の違いを感じたりしています。トイレに入って「紙あれへんやろー」という、おばあちゃんのひとことが分かると、目を白黒させながら出てきた時は、一同大笑でした。」(青位早百合さん談)

- 田中五郎宅 (兵庫・波賀町) → 中町中学校交流会 (兵庫・中町) → 青位真一郎宅 (兵庫・八千代町) → 緑が丘文化祭 (兵庫・三木市) → 山田芳弘宅 (兵庫・社町) → 東落合中学校交流会 (神戸市) → 東日本研修旅行

## ドミーさん (フィリピン)

「ドミーさんはとてもまじめな子です。体調を崩していた前(7月上旬)に比べ随分元気になりました。ネグロスでは、野菜と魚が中心の食事ということで、有機野菜を何種類も作っている私たちの家にはびつたりしたの研修生でした。野菜と日本茶が大好きで見たため私達と変わらないのですが、仕事を始めると30kg以上のお米を軽々担ぎ上げたり私達をびっくりさせます。それでも、故郷のお母さんに早く会いたいともらしたりかわいらしい所があります。9月23日は、市島町鴨庄の運動会でした。いつも挨拶を交わしている近所の人たちともすっかりうちとけて、秋の一日を楽しみました。地域の人たちの評判もよく、受け入れた私達も安心しています。」(一色照子さん談) 一色目をいつも明るい一色さん。ドミーさんを息子のように可愛がっていただきました。地域の方々の交流の輪が広がっている様子は、私達にとって何よりの喜びです。今後ともよろしくご指導下さい。



シイタケの収穫をするドミー君。右は一色さん(兵庫県市島町)

- 一色作郎宅 (兵庫・市島町) → NGO大学ゲスト参加 (大阪・能勢町) → 農具製作研修 (兵庫・三木市) / 竹浪重雄宅 (三木市)・滞在 / 田中視朗氏 (三木市)・手配 / かよう会交流会 (兵庫・八鹿町) → 養父中学校交流会 (兵庫・八鹿町) → 牛尾武博宅 (兵庫・市川町) → アジア市民フォーラムゲスト参加 → 西宮今津高校交流会 → 阿弥陀小学校交流会 (兵庫・高砂市) → 東日本研修旅行

## バムリン・カヨータさん 紹介

この冬、短期研修生として迎えるバムリン・カヨータさん(38)は、6期生ワラン・カヨータさん(38)と同じ村の出身。一人一人ではできないことも仲間が増えれば可能になります。PHDのプログラムから「分かち合い」を再認識し、農業技術と合体させて、村づくりに生かして欲しいと願っています。



## 7期生韓国比較研修同行記

主事補 / 中尾卓英

7期生は8月に、韓国の農村で比較研修を行いました。最初の訪問地は礼山(忠清南道)。農志会メンバーのお宅での作業は、果物、野菜、米、畜産と多岐にわたりました。「KOREA、日本より農業たくさん」と研修生がもらした一言に表れているように、韓国の農業も商業ベースにのせられて近代化が図られているのが現状のようでした。第二の訪問地は洪城(忠清南道)。この地域は、地元のYMCAが農民運動の組織化を強力にバックアップしていました。農民啓蒙のための新聞の発行(週刊8000部)、幼稚園、図書館から精米工場、缶詰工場そして信用組合、購買組合に至るまで、すべてが村の人々の出資によって共同運営されています。なかでも村の農業高校は教員が敷地内に家族と共に生活しており、彼等は毎年勤めでも給料は同じ。校長室もなく、学校運営は村の人々も参加した話合いで決定しています。洪城滞在の最終日は8月15日、光復節でした。夜のテレビはどのチャンネルでも日本の罪業を延々と流し続け、改めて隣国の人々の内面に潜在する日本への意識を考えさせられました。



ミーティングの後、村の人とともに歌う

最後の研修地は居冒(慶尚南道)で、若い農業者の方々と交流を行いました。(写真参照) 現在、韓国農業はアメリカからの農産物輸入自由化の圧力、公害問題、嫁不足といった日本と共通の問題に加え、価格保障がない農協の体制、保険料・水税等の負債という慢性的な問題を抱えています。それでもいまだからこそ、彼等は各面(日本の村)単位の組織を基盤としてエネルギーに活動していました。研修生はこの研修を通じ、自分の国の農業の現状や問題点を再確認すると同時に同世代の農業者に強い刺激をうけたようです。国の枠をこえた農業に携わる者同志の交流、連帯が、PHD運動を通じてさらに広がることを念じ、この研修を支えて下さった皆さまに心より感謝申し上げます。

## トニーさん (パプアニューギニア)

「7月に来た時より日本語が上手になりました。今は農作業の忙しい時期で、稲刈りと毎日の搾乳に精を出しています。夜は、子供達に英語を教えたり一緒に輪投げをしたりと楽しいひとときを過ごしていますが、毎日レポートの整理や日本語の勉強も欠かしません。先日は、お父さんと子供と山へ松茸狩りにいきました。パプアニューギニアでも仕事でよく山にはいるとか、山歩きも手慣れたもので、松茸のありがたみを探すことは私達にも難しいことですが、トニーさんは嗅覚がすぐれているのか上手でした。夜はとれたての松茸をすきやきしました。10月10日は春日町古河の秋祭りがあり、トニーさんもお祭り参りして「ワッショイ、ワッショイ」と太鼓をかつぎました。」(中野美恵子さん談) 松茸のお話には思わずおもしろい話だったので電話口で叫んでしまいました。中野さんのお宅でも、子供好き、おじいちゃん、おばあちゃんへの優しい心遣いがたいへんご好評のトニーさんです。



中野さんと牛舎で (兵庫県水上町) トニーさん

- 渡辺省悟宅 (兵庫・丹南町) → NGO大学ゲスト参加 (大阪・能勢町) → 中野宗嗣宅 (兵庫・春日町) → 西山田中学校交流会 (大阪・吹田市) → 上野中学校交流会 (兵庫・神戸市) → 寝屋川国際婦人クラブ交流会 → 大阪淡水魚試験場 (大阪・寝屋川市) / 讃岐牧子宅 (大阪・守口市) / 岡本加都夫宅 (大阪・寝屋川市) → アジア市民フォーラムゲスト参加 → 片田尚宅 (淡路・五色町) → 阿弥陀小学校交流会 (兵庫・高砂市) → 東日本研修旅行



## 帰国研修生レポート



研修生たち右からユリ(4期) ファイジン(6期) ベディ(6期) 左からアフナル(6期) アリ(5期) 君。

ユリ・タムリン(4期) 引続きバダ市の漁業振興協会に勤務し、漁業の発展のためがんばっています。アイルバンギスに3人の仲間が戻ってきたので、彼らとの協力で向上をとりきっています。

アリ・マルチム(5期) 5人の中では一番、漁業環境として厳しい村に住んでいますが、この6月に同じ村のワッティさんと結婚し、また村の漁師さんとグループを作って役所に陳情にいくなど充実しています。村の人との協働が継続できるかどうか鍵になりそうです。

アフナル(6期) 4月に村に戻り、また船に乗りこんでいます。1年留守をした間に、村に若い漁師のグループができていて、その人たちと一緒にやれることを模索しています。10月に日本に行く人たちの日本語の先生もやっています。

モハメド・ファイジン(6期) 漁業で稼ぎながら通っていた学校が、あと一年残っているため、村での活動は一年後になります。日本で学んだエビの養殖を実行するため、北スマトラの養殖場に修業に行く計画を話してくれました。

ハスリ・ベディ(6期) 伊豆で学んだハエナワが、地元の漁師さんの関心を集めたようで、今回も山本先生に熱心に質問をしていました。あまりリスクの高い方法にはうまくいかないだろうし、村の人々もついてきてはくれないようです。

アジャンタ・プレマラール(6期) 4月帰国後村の青年10人と共に生産協同グループを結成し、バナナの共同生産を展開しています。滞在中にためた小遣いを持帰り、村の仲間からの拠出金と併せてトラクターを購入し、仲間と共用しています。

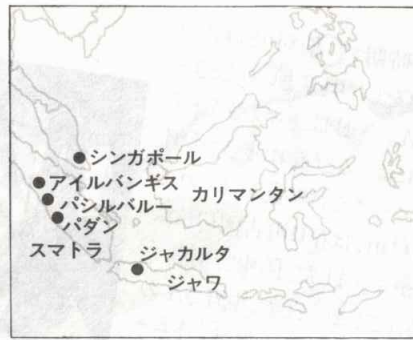
ニール・ラカンティ・ジャヤコディ(5期) 勉強を続けていた英語教師の資格を得、8月から隣村の教師に就任、10月には結婚予定。これからも村に住み、しばらく途絶えていた手芸のグループを再開したいとのこと。奮起を望みたいものです。

ランジット・ジャヤンタ(4期) 昨年7月父を亡くし、又母親も病に倒れ苦労しています。月曜から金曜まではコロボの日系電話架設会社にて日本語通訳として収入を得て、週末に村へ戻り農業をしています。近い将来結婚の可能性ありとの事。

## スリランカ編

## インドネシア編

# INDONESIAN インドネシア フォローアップ& スタディツアー報告



5人の研修生が村に戻ったインドネシア・スマトラを、研修生の共通の師匠である漁師さんを含む9人がこの8月訪ねました。5人の元気な様子と参加者によるレポートをお届けします。

### ●スマトラの弟子を訪ねて

「日本で研修生の指導をしたが、実際にこの地の状況を見て、いくつかのことは高度すぎたのではないかと、日本の漁業そのものをこの地で行うのではなく、長いあいだみなか続けてきた土地に合った漁法を一段ずつ石段を登るように研究、改良して欲しい。私の気付いた点として、1. 船の構造上の問題点 2. 協同して大きな船を造る 3. 地曳網の大型化改良 4. 電気を用いて魚を集める 5. 鮮度良く市場に送る 6. 女性の参加を得た魚の加工法の研究・普及などがある」以上のようなことをアリ君の村、パシルバルーの漁師さんたちとのミーティングで話しをした。アフナル君を中心に研修生が通訳をしてくれた。この村の研修生はアリ君一人。アフナル、ファイジン、ペディ君たちの村は州内とはいえず、電話はない。アリ君とともに村人をひっぱり仲間があつた2〜3人は必要だと感じた。

山本佐一郎 (静岡県西伊豆町、5.6期研修指導者 田子遠洋漁協専務)



浮きはえ縄の漁法を説明する山本さん

●冷たい缶コーヒーを飲みながら  
スマトラとシンガポールで、かつての日本軍の行為について知る機会がありました。平和な時代に暮らしているから、このように旅をし、戦争についても批判的に眺められるわけです。その渦中にいたら、たぶん時代の流れに流されたでしょう。でも、今の時代においても

同じようなまちがいをしているのではないかとふと思いました。日本をはじめ先進国は大変なスピードで地球の資源を消費し、同時に汚染していつか。いわば地球汚染戦争の真っ最中なわけですね。一日暮らせば、ゴミを出し、シャンプーや洗剤で水を汚し、大気に排気ガスをだす私達の暮らし。インドネシアで経験したのは一日暮らしても自然の摂理に逆らわぬ程度の汚れしかでないので大きな目で見ると地球をちっとも汚さない暮らし。なまぬるい水や果物を味わっていた世界から、自動販売機から缶コーヒーを買って飲んでる私。どのように考えていけばいいのでしょうか。

岩本京子 (加西市、三木市立緑ヶ丘中学校教員)

### ●村人の意気込みが村をかえる

パシルバルー村の漁師さんたちとのミーティングが始まりました。村の生活ぶりについていくつかのやりとりの後、山本先生が話を始めた。するとそれまではただやりとりを聞いていただけの村の人が、隣り同士が話始めるようになり、少し自熱して来たように感じた。私はこれが本当の意味での援助なのだ、と気がついた。私たちが一緒に村に泊まり、食事をして、村の生活を考えることで、慢性化してしまった村の生活に新しい風を吹き込むことができる。村の人たちは徐々に真剣に、生活の改善を目指して頑張ってくれるような気がした。自分たちの村を自分たちの手で良くしていこう、その意気込みをおこしてもらったことが本当に村の人のことを考えた本当の援助なのだと思います。

竹澤明美 (東京都 中央大学3年)



熱心に話しをきくパシルバルーの人たち

●思わず歴史を勉強してしまいました  
インドネシアの村ではいろいろとないのが当たりまえ。それでも生活は成り立つ。お金に困っているけど、子供の瞳は輝いている。日本の価値観では不便でも、インドネシアの人がそう思わないところもあるだろう。でも、日本に帰ってインドネシアの歴史を調べてみて、歴史の流れの中でこの国が搾取の対象であったことに気付いた。オランダや日本をはじめ他の国が資源を奪い、開発と称して不都合なものを押しつけたら。モノやカネに毒されるとロクなことがないみたい。

水野恵理子 (神戸市、神戸YMCA専門学校教員)

### ●私は、にわか成金

私はこの旅で、円とインドネシアのお金、ルピアの差に驚いてしまった。1万円を両替したら12万ルピア、お札の紙も多いが、それ以上に使い出もあつた。私はにわか成金になってしまった。村に入りいろいろと尋ねる。アリさんの村の漁師さんの一日の収入が平均1500ルピア(約120円)だという。単純に円におきかえるだけでなく、インドネシアの物価と比較しても、その生活の厳しさが伺える。この経済の格差、円の強さ、これでは日本人が悪意なく、軽い気持ちで欲しがったとしても結果としてインドネシアの多くのものを買い取ってしまう。このことか例の森林破壊にもつながっているのではないだろうか。

榎本暁人 (明石市、加古川北高校教員)

### ●おいしーっ

何もかもがはじめてでしただけ、食べるものがなんといってもエスニックの本場、あの辛さは忘れません。それにおいしい。でてる料理のお皿の数にもびっくり。ナシゴレン、ミーゴレン、テンペ、甘いお茶とコーヒー、かわったフルーツいっぱい。レポートの全文には私がイラストで紹介したので、見て下さいね。  
中村明子 (兵庫県家島町 飾西高校1年)

### ●次のツアー参加者からはオーディションがあります!?

アリさんの村で夕食後、日本の歌を歌っていたら村の人が集まってきて家は一杯。村の人も歌って、まるで歌合戦。窓の外にも子供が集まっている。最後にはホウキを持って踊ってくれたお婆さんまで。単語ひとつ、歌ひとつでも、心が通じれば喜びあえることができるんです。でも研修生の人日本語がじょうずで、まだ忘れていないのにもびっくり。たった一年だけなのに。私の6年間の英語の勉強は何だったんでしょう。これからがんばらうと。

中山瑞恵 (神戸市、山手女子短大1年)

## 広がるアジアとの交流

### ネグロスから熱血の教育者との交流 町長さん

7期生のドミーさんの出身のネグロス島から来日のマンヨッド町の町長ホセ・バルダードさんのお世話をしました。10月末から11月にかけて、行なわれたアジア市民フォーラムの海外ゲストとして、大阪、神戸、淡路島でのイベントで、ネグロスの状況や人々の自立のための取組みについて話をしました。バルダードさんのように、草の根の人々のために仕事をする政治家は貴重な存在です。



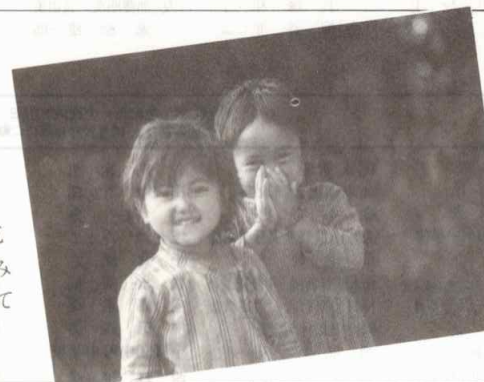
市川町で学ぶドミー君を訪ねたホセさん



東亜経理専門学校を訪ねた右がアリ先生、左がイサ先生

### 年末年始の挨拶状に、クリスマスカードにPHDの絵ハガキをお使い下さい。

アジアの子供たちの明るい表情をとらえ好評をいただいている「PHD絵ハガキ」セット。A・B2種類。各4枚入って300円。収益は研修生の研修費に充てられます。電話かハガキでお申し込み下さい。品物と併せ振替用紙を送らせていただきます。



### 伝統の歌と踊りを通じて

32号ニュース欄で紹介したスマトラの伝統音楽、踊りのグループ「インドジャティ」の皆さんが、来日し、10月31日の神戸を皮切りに11月5日まで淡路島3ヶ月で公演を行ないました。今回の招へいは、漁業研修生が淡路島五色町で学ばせていただいたことがきっかけで、五色の皆さんとスマトラの人々との間で交流がはじまり漁業を通じての関係にとどまらず文化面での交流まで広がってきたものです。今回の招へいの仕掛人は五色町役場に勤める勢造博之さん。2度のスマトラ訪問、来日研修生のお世話を通じて、ムクムクと盛り上がったものをこのイベントに結んで下さいました。最近のPHDはいろんな動きがあつて面白い。あなたもPHDをもっと使して下さい。スマトラ独特の楽器を使い、エキゾチックなメロディー、色鮮やかな衣装、優雅な舞い、紙面ではお伝えできないのが残念です。今回来日したのはインドジャティのメンバーのうち3人。本来は15〜20人がフルメンバー。次の機会には全員を招きたいものです。



満員となった五色町文化祭で

## PHD NEWS

会費・ご寄附寄託状況			
1989年	8月	69件	1,882,319円
	9月	71件	774,609円
	10月	36件	1,272,762円
	計	176件	3,929,690円

以上の通り、多くの皆様より会費とご寄附を頂戴いたしました。ご協力いただき深く感謝申し上げます。

### 第8期研修生ホームステイをお願いします

PHD第8期研修生が、90年3月に日本にやってきます。来日後、約2ヶ月の間日本語を学びますが、その間、家庭滞在にご協力いただける方を探しています。滞在可能な方、またお知り合ってお心当たりのある方は是非PHD協会までご一報下さい。

●次期研修生 フィリピン、バブア・ニューギニア、タイから計4名の青年が来日する予定です。  
●期間 90年3月から約2ヶ月間(短期間可能な方もご一報下さい)  
●内容 日本語研修中の宿泊・食事(昼間は学校に通います)  
●経費 当協会規定の額をお支払いいたします。顔の見える交流を、アジア・南太平洋の隣人たちと体験できる絶好の機会です。ご連絡をお待ちしています。

### 西日本研修旅行のお知らせ

7期研修生の1年間の日本での研修のまとめの機会として、今年度も西日本研修旅行を実施します。各地で、ご支援いただきながら日頃お目にかかれない皆様方と、お会いできることを一同楽しみにしています。研修生から、自国の村の

様子、日本での経験を直接聞いていただきたいと思ひます。只今、交流会・訪問を希望される方、研修旅行に一緒にご同行して下さる方を募集中です。部分参加も大歓迎。協会までご一報をお待ちしています。

時期: 90年1月下旬〜2月中旬  
予定コース: 神戸-筑豊-北九州-福岡-熊本-水俣-長崎-諫早-有田-広島-広島県北-福山-倉敷-岡山-神戸

### 兵庫県内研修旅行のご案内

兵庫県内研修旅行を3月に予定しています。7期研修生も、早1年の予定が終了しようとしています。研修の最後のしめくくりとして、3月上旬に兵庫県内を1週間を巡りご報告とお礼を兼ねて各地で交流の機会をと考えています。こちらの方も交流のご希望がございましたら協会までご連絡下さい。



## 編/集/後/記

高校1年の時から何となく通っていたPHD、その私も今は看護婦のたまごです。高校卒業後、約2年のブランクはあったけど、緊張しながら今年の夏の草生塾に参加し、再びPHDへせこせここと通いはじめました。看護婦の道を目指したのも、PHDで青年海外協力隊の人の話を聴き“昔から何か自分の力を役立てられることをしたい”と思っていた私は、思わず感化されてしまったという事実も述べてしましましょう。そういう訳でPHDとは何とというか腐れ縁になってしまっているのです。喜ぶべきか悲しむべきか…。夏の草生塾では、32号のレターでみきちゃんが書いていたように、本当に私も楽しま

せてもらいました。自然に触れ、たとえ5日間のキャンプだったけど、子供達とても生き生きしてた。きれいな星空を眺めたり、みんなでキャンプファイヤーをやったり、私もいい思い出になりました。来年は看護婦として、せこせこ病院で働いているだろうけどPHDにはこれからも気分転換にしてお手伝い（やけに強調する！）に来たいと思います。

PHDでは幼なじみと再会したり、高校の先輩が職員になっていたり、友達が増えたりで、私にとっては別の意味でenjoyできる場所なので、これからもいりびたるでしょう。それゆえみなさんよろしゅう頼みます。

今年の12月、初の海外旅行に出かけます。バイトが学業上出来なくて資金集めには苦労しましたが、その分多いに楽しんでこよ

うと思っています。海外といってもお隣りの韓国ですが…。友達の家でホームステイして激安旅行をする予定です。今からワクワク！！学生最後の、そして最大の計画に向けて今から意気込んでいる私であります。最後に、みなさま季節がら風邪などひかれませぬように、また事務所で会いませう。最後だけ看護婦めいたセリフを書いて終わらせる私であります。それでは、また…。

(団ちゃん)

### レター33号編集メンバー

赤松恵美子	得原輝美	梶原靖子
川那辺裕子	団圭子	中島千絵
中山瑞恵	柿原登志夫	

新規会員・寄付者ご芳名は、  
個人情報保護のため  
掲載しておりません。